

「佛母寺だより」は無料、不要の方は一報ください

# 佛母寺だより 第14号

発行・佛母寺 〒299-1601 富津市田倉942-13

住職・松原覚樹

Tel:0439-37-2336 Fax:0439-37-2378

上記につながらない時は Tel:03-3451-1853; Fax:03-3451-6094

Website:www.butsumoji.com

## 「随处に主と作（な）れば、立身皆真なり」

いつ、どこにあっても、やる気になってやるなら、そこが現実に理想の場となる、という禅の臨濟録というテキストにでてくる教えです。とくに最近、生きがいがよく問題になります。とくに、若い人たちの間で、問題になっています。

自分が主体性を持つとは、仕事なら仕事に成り切る・徹し切る・自分から進んでやる気になって事を運ぶことです。すると生きがいの方から私たちに訪れてくれるのではないのでしょうか。

いわゆる、「汚い・きつい・危険」の3Kの職場は嫌われ、避けられます。そこで逃げることなく胸を張って、「希望・工夫・感受性（感動）」のプラスの3Kへと方向転換すること、このプラスの3Kへ発想転換することが大切です。

良寛さんの「花は無心にして蝶を招き、蝶は無心にして花を尋ぬ」（花も蝶も無心の縁にしたがって精いっぱい出会いを生き抜いている）という言葉にあるように、こうした「無心の縁（えにし）」とでも、「無声の語らい」といった縁の中に私たちは生きて、活かされています。こうした縁の中で、一生懸命生きるならば、ライフはいつでも、どこからでも始まるものになるでしょう。

松原覚樹合掌

## 春彼岸会ご案内

今年のお彼岸は、3月17日より23日までです。仏壇に茶菓、お花をお供えし、ご家族でお参りしましょう。当寺では、下記の如く春彼岸法要を行います。是非ご都合つけられましてご参拝下さいますようご案内申し上げます。

### 記

**3月17日（彼岸入り：日曜日）**  
**午前11時、春彼岸法要・法話**

塔婆の申し込みは、電話・ファックス・メールなどをお願いします。

また、当日の彼岸会には出席されないけれども、塔婆をご希望される方は、お墓参りされる時までにご用意致しますので、お早めにお申し込み下さいますようお願い致します。その際、参拝日の予定もお書き添え下さると幸甚です。

春彼岸会の塔婆は3月いっぱいまで残しています。彼岸法要に欠席された方も墓参りに来山の折、各自でおたて下さい。

## (続) 佛母寺ミニ法話(白隠:夜船閑話編)

見る者類(ひたい)をあつめ、聞者肌汗す(きくものはだえにあせず)。鬼神もまた涙を浮かべつべく、魔外(まげ)もまた掌(たなごころ)を合わせつべし。

松蔭寺での雲水修行僧たちのきびしい生活をながめ見る世間の人たちは、これはひどいとひたいにしわをあつめたものです。実際にこの眼で確かめず風聞を耳にただけでも肌に汗がにじむほどおどろくのですから。大体が、情などないと考えられている鬼神たちですら、雲水たちのきびしい修行を見て涙を流すくらい。魔外、つまり悪魔や外道などといった、仏道に理解を示さない連中までが思わず合掌し、南無、南無というぐらいます。

其初め来る時は、宋玉何晏(そうぎょくかあん)が美貌有て、肌膚(きふ)光沢凝れる膏(あぶら)の如くなる者も。

雲水たちがはじめて松蔭寺の雲水としてここにやってきた時は、みんな、それは可愛らしく、美男子ばかりでした。まるで、中国の美丈夫(宋玉や何晏)のようでした。肌や皮膚はつやつや輝いてあぶらぎっておりました。

宋玉は詩人で、屈原の弟子です。美男子の代表的な男性といわれています。何晏は魏の人で、彼もまた屏風の錦絵から抜け出たような美貌の持主だったようです。

久しからずして恰(あたか)も杜甫(とほ)賈嶋(かとう)が形容枯槁(ここう)、顔色憔悴するが如く、或いは屈子(くっし)沢畔(たくはん)に逢うが如し。

宋玉のような美男子たちも松蔭寺の修行生活に入ったとたん、食事は粗食、修行は辛苦艱難ときていますので、まるで杜甫や賈嶋のようにやせ細り顔色もさえず、屈原が沢のあたりをさまよい歩くようです。

杜甫は憂国の詩人でした。官を捨てて、薪を拾い木の実を食べて自給自足の生活をしたのです。賈嶋は初め僧となって詩をたくみにしておりましたが、のちに還俗し官についたものの途中で卒した人です。白隠禅師が「形容枯槁」と表現したのは賈嶋が詩を作るのに苦心した表情と考えられています。屈原も詩人です。官についたものの左遷させられ、汨羅(べきら)の渚に身を投じてしまいます。入水自殺の汨羅とは場所が違っておりますが、長江三峡下りの町で、今なお5月5日になると、屈原の為にチマキを河の中に投げ入れて供養する祭りが行われています。所は異なるものの、水の中で屈原がおなかをすかしているのではないかということでしょうね。そこでごはんを河中に投げ入れたところ、魚たちが自分たちの餌だと思い食べてしまいました。そこで、先の尖ったチマキならば矢か石ころかなにかと勘違いするだろうと考えたとか。三峡下りの船の中で耳にしたことです。

参玄軀妙命(くみょう)を顧みざる底の勇猛の上士にあらざるよりんば、何の樂み有りてか、片時(へんじ)も湊泊(そうはく)すること得んや。

参玄は前にもありましたね。参禅のことです。軀命とは身体と生命、それを惜しむようでは修行はできません。身命をかえりみないような勇猛な上々の器の人間でなければ、何の樂しみあつてか、どうして一時も在錫することができるであります。いえ、そんなことできるはずがないではありませんか。

是故に往々に参窮度に過ぎ、精苦節を失する族（やから）は、肺金いたみかじけ水分枯渴して、疝癰塊痛難治（せんぺきかいつう）の重症を發せんとす。

かくのごときことから、往々にして禅修行がゆきすぎて、きびしさを乗り越して過度になりがちです。苦節が度を過ぎてしまった者たちは呼吸器系に異常を生じます。肺金は中国の古代医学における五行説で、肺は金、心が火、肝を木、脾は土、腎を水にあてました。肺金・心火・肝木・脾土・腎水といいます。よって、肺金とは肺臓のことです。「かじけ」とは、疲れて勢いが衰えてしまうことです。

是を憐れみ是を愁て、師不予の色有る者連日、乍ち忍俊不禁（にんしゅんふきん）にして雲頭を按下（あんげ）し、老婆の臭乳を絞って是に授るに内観の秘訣を以てす。

折角修禅に松蔭寺に掛塔はしたものの坐禅指導法を誤って受けて禅病になる雲水が出て来たりします。あるいは正しい指導をしてもらっても受け取り方を誤れば、やはり病気になります。それらを見るにつけて、白隠禅師は憐みうれい、愉しむ日々があろうはずがありません。不予の予は悦ばないの意です。『前掲書』に「夫子不予の色ある若く然り」と。『孟子』を引用しています。

忍俊不禁は、やはり『前掲書』によると、『従容録』に見られる語で、漢和辞典には掲っていないようです。全部を調べてみたわけではありませんが。その意味するところは、「忍び難きに心を奮い起こしてと云う様な意味」とあります。つまり、本当は人に話すべきものではなくひそかにしまっておこうとしたことを、あえて授けようと思った、となりますね。雲頭は、雲のように大空高い、手の届かないところにあるような頭を下げてもらって。白隠禅師に、曲げて人情にしたがっていただいて、私どものために内観の秘法を説いて下さいまし、と。

老婆の乳など出ようもない。たとえ出たとしても臭乳であろうかというわけです。禅病に苦しむ雲水たちを助けるために、出ない乳をさらにふりしぼって、少しでも利益あるようにと内観の秘訣をここにあらわしていただくことになりました、との意になりましょう。一般に「雲頭を按下し、老婆の臭乳を絞って」は白隠禅師が主語と受けとられています。もちろん、それでよろしいのですけれど、ここでは雲水たちが主語で、雲水のために、白隠禅師に曲げて人情にしたがっていただき、内観の秘訣をもってすと読んでみました。いずれがよろしいか。皆さんはどう読みますか？

乃ち云く、若是参禅弃道の上士、心火逆上し、心身疲労し、五内調和せざることあらんに、

さて、いよいよ、内観の秘法の概略に入りました。すなわち、白隠禅師がいわれるには、もし参禅弃道に意欲を燃やす上々の士であっても、心火がのぼり、心身疲労し、五臓が変調をきたすことがあります、と。心火とは、心臓は中国の五行思想でいうと火。つまり心臓の気。これが、身体の上に逆上するとバランスがこわれます。例えば、呼吸をノドですると、息があがる。だから、心火を下におろせ、丹田に下せとします。詳しくは、本文中で。

(つづく)

## お知らせ

◎ 最近特に、業者と提携して寺院に住せず修行をしたかどうかよく分からないアルバイト僧侶なる者が横行しています。派遣僧侶です。佛母寺のお檀家さんまたは佛母寺墓地に埋葬されるお檀家さんには、佛母寺の住職が戒名を授け、佛母寺の住職がお通夜・お葬式・その他一切の法要を責任を持って執り行わなければなりません。もしも、お檀家さんでお葬式を出す場合、葬儀屋さんと日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。出来るだけ調整をして、お通夜・お葬式を勤めさせていただきます。また、日程をすでに決めてしまった場合、できるだけ調整しますが、やむを得ない場合、有縁の臨済宗僧侶を

紹介させていただきます。また、千葉県以外でお葬式を出す場合、臨済宗の僧籍をもつ僧侶を紹介させていただきます。葬儀の形態、場所にかかわらず、当寺のお檀家さん・当寺墓地に埋葬されるお檀家さんがお亡くなりになった場合、葬儀屋さんと日程を決める前に、必ず佛母寺にご一報お願い致します。東京でお通夜・お葬式を出す場合、葬儀屋さんを紹介することもできます。

- ◎ お電話での寺務所受付は、9:00～16:30 までとさせていただきます。16:30 以降の電話はすべて龍源寺（03-3451-1853）へ転送されます。
- ◎ 佛母寺墓地について一言。個人墓地内の草取り等の清浄・清掃管理については、その墓地使用者の責任範囲です（宗教法人佛母寺所有墓地使用規定第8条明記）。ご自身で草取り等をしていただきますようお願い致します。なお、墓地使用規則の定めは、当寺責任役員会の決議を経て、より明確に明記する為に近い将来に改訂されることを検討しています。
- ◎ 佛母寺で法要を申込まれた檀信徒のみを対象として、墓地掃除サービスを始めました。簡単なお掃除とお花、お線香をお供え致します。法要当日まで来山できない方はどうぞご利用ください。
  - 1) 簡単なお掃除とお花、お線香のお供え。¥10,000
  - 2) 簡単なお掃除のみ。¥8,000
  - \* 簡単なお掃除とは、お墓周りの枯葉・雑草・ゴミの収集・花立の掃除を致します。
  - \*\* 墓石の水拭きは致しません。
- ◎ 「佛母寺だより」は年間4回発行（春彼岸号、お盆号、秋彼岸号、年末号）です。必要のない方は佛母寺まで一報ください。発送を中止いたします。
- ◎ 佛母寺公式ウェブサイトはもうご覧になられましたか？仏事法要申込、ご祈願受付、水子供養、ペット供養、墓地、永代供養塔妙峰殿に関する事など、何でもお気軽にご質問・ご相談ください。 **website: [www.butsumoji.com](http://www.butsumoji.com)**
- ◎ 新年、年回が当たっておられます方は、ご法事希望の日時が決まりましたら、お電話・FAX、またはウェブサイトの「お問い合わせ」からメールにてお問い合わせ下さい。

おもな行事	
春彼岸会	3月17日(日)
妙峰殿施餓鬼会	7月第2日曜日
施餓鬼会	8月4日(土)
秋彼岸会	9月23日(月)
除夜鐘	大晦日

平成25年 正当年回表	
1 周忌	平成24年
3 回忌	平成23年
7 回忌	平成19年
13 回忌	平成13年
17 回忌	平成9年
23 回忌	平成3年
27 回忌	昭和62年
33 回忌	昭和56年
37 回忌	昭和52年
50 遠年忌	昭和39年